

2019年産 果樹病害虫防除暦・施肥例

使わない!! 無登録(登録外使用)農薬
海草振興局農林水産振興部
農業水産振興課監修
平成30年11月現在

温州みかん・かんきつ類 みかんとかんきつ類は登録内容が異なる場合があるので注意!!

防除時期	適用病害虫	防除薬剤・倍数	使用基準 収穫前日数/使用回数	備考
2月～4月	黒点病	黒点病対策のため、枯枝切を徹底する。	—	—
5月中～下旬	ケシキスイ類 チャノキイロアザミウマ アブラムシ類 灰色かび病 黒そうか病	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	1/3	養蜂に対し、注意する。
		ナティーボフロアブル 1,500倍	1/3	
6月中旬 (入梅前)	黒点病 アブラムシ類 チャノキイロアザミウマ ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ	ジマンダイセン水和剤 600倍	30/4 かんきつ(90/4)	ハーベストオイルの散布はツユが完全になくなってから行う。
		キラップフロアブル 2,000倍	21/2	
		ハーベストオイル 200倍	6～7月中旬/—	
6月下旬～ 7月中旬	黒点病 カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ ゴマダラカミキリ(成虫) ミカンサビダニ (浮皮・果皮障害軽減)	ジマンダイセン水和剤 600倍	30/4 かんきつ(90/4)	ゴマダラカミキリ成虫多発時にはモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(14/3)を散布する。
		スプラサイド乳剤40 1,500倍	14/4 かんきつ(90/4)	
		サンマイト水和剤 3,000倍 (バICALティ 1,000倍)	3/2	
8月中旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ (浮皮・果皮障害軽減)	ジマンダイセン水和剤 600倍	30/4 かんきつ(90/4)	着色期のミカンハダニ発生に注意すること。 発生時には、10月中旬以降はオマイト水和剤750倍(7/2)を散布する。 かんきつ(14/2)
		コテツフロアブル 4,000倍 (バICALティ 1,000倍)	1/2	
8月下旬～ 9月中旬	チャノホコリダニ ミカンサビダニ (浮皮・果皮障害軽減)	ダニゲッターフロアブル 2,000倍 (バICALティ 1,000倍)	1/1	ベフラン液剤を石灰硫黄合剤と混合する場合は先にベフラン液剤を溶かし、必ずかくはん機を使用する。
収穫前	ミカンサビダニ	サルファーズル 400倍	—/—	—
	貯蔵病害	トップジンM水和剤 2,000倍 または ベフラン液剤25 2,000倍	1/5 1/3 かんきつ(1/2)	
12月下旬～ 1月上旬 (収穫後)	ヤノネカイガラムシ ミカンハダニ	ハーベストオイル 60～80倍	12～3月/—	収穫後、無散布園では3月中下旬ハーベストオイル80倍を散布する。

特殊防除

防除時期	適用病害虫	防除薬剤・倍数	使用基準 収穫前日数/使用回数	備考
3月～9月	かいよう病	3月(発芽前) ICボルドー66D 60倍	—/—	ハーベストオイルとICボルドー66Dは1ヶ月あけること。 発病が多い園では、アピオンE 1,000倍を加用する。
		5月中下旬 ICボルドー66D (加用)クレフノン 80倍 200倍	—/— —/—	
		6月以降 コサイド3000 (加用)クレフノン 2,000倍 200倍 または バリダシン液剤5 500倍	—/— —/— 14/4	
7月上旬～ 8月上旬	カミキリムシ類幼虫(天牛)	ダーズバン乳剤40 100倍 (加用)アブローチBI 1,000倍	30/2 —/—	株元枝幹散布。多発園では2回散布。 みかん以外のかんきつ類はモスピラン顆粒水溶剤400倍(14/3)を散布する。
発生期	カメムシ類	ロディー乳剤 2,000倍	7/4	—

高品質安定生産

(ターム水溶剤使用例)

使用目的	使用濃度	使用時期	使用回数	散布液量	使用方法	備考
全摘果	500～1,000倍	一次生理落果発生期 (満開10～20日後)	1回	250～500ℓ/10a	立木全面散布 または枝別散布	●植物ホルモン剤であり、他剤との混用は避ける。 ●樹勢の弱い樹には使用を避ける。 ●重複散布しない。
間引き摘果	1,000～1,500倍	二次生理落果発生期 (満開20～40日後)		250～500ℓ/10a	立木全面散布 または枝別散布	

(フィガロン乳剤使用例)

使用目的	使用濃度	使用時期	使用回数	散布液量	使用方法	備考
熟期促進	2,000～3,000倍	1回目満開後 50～90日 2回目満開後 70～110日	14/2	250～500ℓ/10a	立木全面散布	●植物ホルモン剤のため、樹勢の弱い樹では使用しない。 ●樹勢低下をまねくため液肥(チッ素系)の葉面散布を収穫後2回、春先3回程度散布する。 ●フィガロン(エチクロゼート)2,000倍以上の総使用回数は4回以内
浮皮軽減	2,000～3,000倍	蛭尻期とその2週間後	7/2	250～500ℓ/10a	立木全面散布	

施肥設計

	施肥時期			10a当り成分量(kg)		
	N	P	K			
極・早生温州	1～3月	3月上旬	10月上旬	14.4	12.6	12.6
	土壌改良 苦土入りセルカ2号 200kg	ニューわかやま味ーブリケット 80kg (8-7-7) または わかやま配合 80kg	ニューわかやま味ーブリケット 100kg (8-7-7) または わかやま配合 120kg (8-5-6)	16.0	10.0	12.0
普通温州	1～3月	3月上旬	10月下旬	20.8	18.2	18.2
	土壌改良 苦土入りセルカ2号 200kg	ニューわかやま味ーブリケット 120kg (8-7-7) または わかやま配合 120kg (8-5-6)	ニューわかやま味ーブリケット 140kg (8-7-7) または わかやま配合 150kg (8-5-6)	21.6	13.5	16.2

◎土壌改良は毎年励行しよう。

※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用、微量要素補給に10a当りFTE 2kg・BMヨーリン 60kg

果樹園除草剤の使用基準

除草剤名	対象果樹	適用雑草名	10a当りの使用量 薬量	希釈水量	使用回数	使用時期 収穫前日数
ラウンドアップ マックスロード	果樹類	スギナ	1,500～2,000mℓ	(通常) 50～100ℓ (少量) 25～50ℓ	グリホサートを含む農薬の総使用回数 かんきつ5回以内 かんきつ以外3回以内	7日前まで 雑草生育期
		一年生雑草	200～500mℓ			
		多年生雑草	500～1,000mℓ			
タッチダウンiQ	果樹類	スギナ	1,500～2,000mℓ	25～50ℓ	5日前まで 雑草生育期 (草丈30cm以下)	
		一年生雑草	250～500mℓ			
		多年生雑草	500～1,000mℓ			
バスタ液剤	かんきつ、りんご もも、かき、うめ ぶどう、なし、ブルーベリー イチジク	一年生雑草	300～500mℓ	100～150ℓ	3回以内 21日前まで 雑草生育期 (草丈30cm以下)	
		多年生雑草	500～1,000mℓ			
		一年生雑草	300～500mℓ			
		多年生雑草	500～1,000mℓ			
		一年生雑草	300～500mℓ			
ブリグロックスL	果樹類	スギナ	1,000～2,000mℓ	100～150ℓ	5回以内 収穫前日	雑草生育期
		一年生雑草	800～1,000mℓ			
		多年生雑草	1,500～2,000mℓ			

注) 水田の直ぐ近くや大雨で水が水田に流れ込む恐れのあるような所では、土壌処理型除草剤(ゾーバー・ハイバーX・カソロン粒剤他)は使用しない。

◎農薬の使用基準は変更になる場合があるので注意しましょう。

◎農薬使用基準を守り、適期適正防除を行いましょう。

◎農薬による急病で診療先がわからない場合は、県救急医療情報センター

TEL 073-426-1199 または 073-426-1252 へ

柿

富有柿は人工授粉を徹底!

防除時期	適用病害虫	防除薬剤・倍数	使用基準 収穫前日数/使用回数	備考
12月～3月	各種病害虫	粗皮削り及び落葉処理	—	カイガラムシ類には、発芽前に石灰硫黄合剤10倍を散布する。
3月下旬 (萌芽前)	うどんこ病 (炭そ病)	ホーマイコート 100倍 (50倍)	休眠期/1	—
4月中旬	うどんこ病 カキクダアザミウマ フジコナカイガラムシ	サルファーズル 500倍 トクチオン水和剤 800倍	—/— 75/2	—
5月中旬 (開花直前)	落葉そ病 カキクダアザミウマ チャノキイロアザミウマ ハダニ類	エムダイファー水和剤 600倍	45/2	アザミウマ類の防除を徹底する。 富有柿は人工授粉をしない場合、開花期の殺虫剤の混用をしない。 落葉病の重点防除時期であるため、10a当り700ℓの散布量で防除を徹底する。
		ジェイエース水溶剤 1,500倍	45/2	
		ダニロンフロアブル 1,000倍	7/1	
6月上旬 (幼果期)	うどんこ病 炭そ病 アザミウマ類	オンリーワンフロアブル 3,000倍	1/3	果皮障害防止対策として、バICALティ(Ca) 1,000倍を3～5回散布する。
		キラップフロアブル 2,000倍	7/2	
6月中・下旬 (生理落果期)	落葉そ病 カキクダアザミウマ フジコナカイガラムシ幼虫	ジマンダイセン水和剤 600倍	45/2	カメムシ・コナカイガラムシ類発生園では、スタークル顆粒水溶剤2,000倍(1/3)を散布する。
		スプラサイド水和剤 1,500倍	30/3	
7月中旬	落葉そ病 カキクダアザミウマ カイガラムシ類	ジマンダイセン水和剤 600倍	45/2	—
		スプラサイド水和剤 1,500倍	30/3	
8月上旬 (果実肥大期)	落葉そ病 イラガ類 キノヘタムシガ	スコア顆粒水和剤 3,000倍	1/3	ミカンキイロアザミウマの予防と黒変果軽減のため、除草及び白マルチの敷設を行う。
		フェニックス顆粒水和剤 4,000倍	7/2	
8月中・下旬	炭そ病 うどんこ病 カメムシ類	トップジンM水和剤 1,000倍	1/6	—
		スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	1/3	

標準施肥例

施肥時期				10a当り成分量(kg)			備考
				N	P	K	
1～3月	3月上旬	9月下旬～10月中旬		16.0	14.0	14.0	樹勢に応じた土壌改良は毎年励行しよう。 土壌改良は土壌改良を行う。
土壌改良 苦土セルカフミン 120kg	ニューわかやま味ーブリケット 60kg (8-7-7) または わかやま配合 70kg (8-5-6)	ニューわかやま味ーブリケット 140kg (8-7-7) または わかやま配合 150kg (8-5-6)		17.6	11.0	13.2	

※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用。

梅(南高)

古城・小梅は収穫前日数に注意!

防除時期	適用病害虫	防除薬剤・倍数	使用基準 収穫前日数/使用回数	備考
12月	カイガラムシ類	石灰硫黄合剤 10倍	発芽前/—	開花期間中は防除厳禁
1月中旬	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍	1/3	—
3月上・中旬 (落弁期)	灰色かび病	ベルコート水和剤 2,000倍	30/3	散布時期に注意し、葉害発生の恐れのある場合はクレフノン 200倍を加用する。
	かいよう病	Zボルドー 500倍 または ICボルドー66D 50倍	葉芽発芽前/— 葉芽発芽前/—	
3月下旬	かいよう病	カスミン液剤 500倍	60/2	カスミン液剤を散布する場合は、小梅・古城の収穫期に注意。
	黒星病	デランフロアブル 2,000倍	45/1	
4月上旬 (幼果期)	アブラムシ類	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	1/3	古城のヤニ果防止として、葉面散布剤(ヨーヒB5・800倍)を3回程度散布する。 カイガラムシ類幼虫多発園では、アブロードフロアブル1,000倍(7/2)で防除する。
	黒星病 すす斑病 かいよう病	スコア顆粒水和剤 3,000倍 マイコシールド 1,500倍	1/3 21/4	
4月下旬 (果実肥大期)	黒星病 すす斑病 うどんこ病 かいよう病 ケムシ類	ストロビードライフロアブル 2,000倍	7/3	コスカシバ防除としてスカシバコンL40～100本/10aを広面積で実施するのもよい。
		マイコシールド 1,500倍	21/4	
		マブリック水和剤20 4,000倍	21/2	
5月上・中旬	黒星病 すす斑病 カメムシ類	スコア顆粒水和剤 3,000倍	1/3	—
		スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	1/3	
5月下旬～ 収穫前	すす斑病	インダーフロアブル 5,000倍	1/2	カメムシ発生時は、スカウトフロアブル2,000倍(1/3)で防除する。
収穫後	カイガラムシ類	スプラサイド乳剤40 1,500倍	14/2	多発園では収穫後に必ず散布すること。

標準施肥例

施肥時期				10a当り成分量(kg)			備考
				N	P	K	
4月下旬	7月上旬	10月上旬	11～12月	17.6	12.0	12.0	土壌改良は毎年励行しよう。 土壌改良は土壌改良を行う。
L型化成488 (14-8-8) 40kg	L型化成488 (14-8-8) 40kg	ニューわかやま味ーブリケット 80kg (8-7-7) または わかやま配合 80kg (8-5-6)	土壌改良 苦土セルカフミン 120kg	17.6	10.4	11.2	

※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用、微量要素補給に10a当りFTE 6kg。

希釈倍数表

倍数	10	50	60	80	100	150	200	300	500	600	800	1,000	1,500	2,000	3,000	4,000
水18ℓ当り薬量 (g、mℓ)	1,800	360	300	225	180	120	90	60	36	30	22	18	12	9	6	4
水100ℓ当り薬量 (g、mℓ)	10,000	2,000	1,666	1,250	1,000	666	500	333	200	166	125	100	66	50	33	25

防除記録簿例

作物：		圃場名：		面積：		a
防除月日	使 用 薬 剤 名 ・ 使 用 濃 度 (倍)					散布量 (ℓ)
(例) 6/25	ジマンダイセン水和剤 (600倍)					750 ℓ

○除草剤・植物生育調節剤の記入も忘れずに!

農薬(毒物・劇物)の購入には必ず印鑑を!

農薬散布は、必ずマスク・防除衣を着用しよう!!

防除の際は飛散(ドリフト)に注意しよう!!!

防除記録は必ず記帳しよう!!!

